

～ ご挨拶 ～

拝啓 晩秋の候 平素は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

弊社、株式会社アークスは、防衛及び航空・宇宙分野を中心に、約22年間に培った経験や知見を活用し、国民の安心及び安全の確保の一翼を担うことで社会貢献を果たしたいという思いから、本年1月に設立したコンサルティング会社です。

今後は、同分野において、新たな政策立案、制度設計、技術導入並びに事業管理等の支援をご提供させていただくとともに、情報発信にも取り組んでまいります。

今後ともご愛顧お引立てを賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

敬具

代表取締役 清水 俊宏

弊社では、自衛隊の後方支援分野におけるこれまでの経験や知見を踏まえて、自衛隊の後方支援に関わる各種の検討及び取組についての提案活動を実施いたします。

その一環として、今後、自衛隊に限られたリソースを最大限に活用し、効率的かつ効果的な運用を継続的に実施していくために、主に後方支援の視点からどのような取組を行っていくべきか、僭越ではありますが、本誌上において、弊社としての提言を述べさせていただきます。

自衛隊の後方支援分野においては、これまでに総合取得改革や防衛省改革等において、防衛省として様々な取組をされています。これらの取組においては、コスト削減や効率化向上といった一定の成果を上げたと判断できるものもあれば、まだ改善等の効果が見込める段階に至っていないものもあるのではないのでしょうか。特に、後方支援すなわちロジスティクスという観点で見ると、モノや情報が必ずしもスムーズに流れていないケースが多々あるのではないかと感じています。弊社としては、モノと情報がスムーズに流れる態勢の構築こそが、自衛隊の後方支援においても目指す姿ではないかと考えます。

そこで、「モノと情報がスムーズに流れる態勢」について、その特徴を整理するとともに、そのような態勢を整えるために必要なことをいくつか紹介させていただきます。

「モノと情報がスムーズに流れる態勢」においては、モノや情報が不要に停滞することがないような流れがデザインされていると同時に、万が一停滞した場合には速やかにその停滞を解消するルールと手続きが整っています。

モノについて見てみると、例えば定常的にオーダーがあるような場合には、メーカー側の作り置きと物流拠点の在庫以外は、モノが停滞する場所がないようにデザインされています。また、作り置きも物流拠点の在庫も、予め定めた数量を超えることはなく、かつ予め定めた期間内に出荷されます。もし、時々しかオーダーがないような場合は作り置きもありません。修理の場合においても、修理受付後は前述と同様の流れとなります。もちろん、品質確認や決済待ち等の多少の待ちはあるものの、これらは数日程度まで短く設定されています。

情報についても概ね同様です。例えば、ある製品や部品を欲しい人が「欲しい」と言った瞬間にリクエストが起票されます。そして、直ちに本当に必要かといった確認や決済等の手続きを経て、速やかに正式なオーダーとなり、メーカー等への発注につながる流れとなっています。また、所要量の見積精度が低いために、買い過ぎや不足が生じた場合、納入先の変更が必要な場合には、速やかに適正な流れとすべく、調整のための情報をいち早く流す仕組みが確立しています。更に、情報については、一通りの流れの後、適切などころに適切な形で蓄積され、各種分析や新たな情報の起票等に再利用することが可能となっています。再利用後の流れももちろんスムーズに流れるようにデザインされています。

このような「モノと情報がスムーズに流れる態勢」を構築するためには、まずは全体最適を最優先する考えが重要です。組織全体において、どのような流れが生じうるかを把握し、それぞれの流れの起点と終点を定義します。そして、モノについては、停滞を許容する場所とその期間を定めます。例えば、物流拠点の在庫は2週間以内の出荷を原則とするなどです。一方、情報については、発生点での入力あるいは起票を徹底し、それができるだけスムーズに流れるように経路を確保します。決済等が必要な場合には、例えば3日以内に決済を完了するようにルールを定めます。モノや情報が停滞してしまう状況をできるだけ限定することがポイントになります。

自衛隊の後方支援においても、装備品を取得あるいは修理する際の要求から納入までの流れ、運用部隊からの部品請求に対する共用までの流れといった様々なモノと情報の流れが定義できます。これらの流れに対して、全体最適の観点から、最短のルートを設定し、決済等による待ちや補給処の在庫期間を最短で設定することができれば、効率的な後方支援が可能になると考えます。また、追加調達や修理、更には管理換による流れもスムーズにすることができれば、柔軟性をも兼ね備えた態勢になるでしょう。所要量の見積精度の向上等によって、このようなイレギュラーな流れの軽減が期待されますが、残念ながらこれを全くなくすることはできません。更に、これらの流れの状況をモニタし、適正に維持することで、持続性の確保が可能になります。ただし、自衛隊の場合には、調達上の制約等によって買いたい時にすぐには買えない、あるいは有事に備えた対策が必要といった特性の考慮が必要になります。

しかしながら、自衛隊のそのような特徴は理解しつつも、まずは、後方支援としてどうあるべきかという理想を掲げ、できる限りその理想の実現を目指すことが重要になります。この理想に対して、諸々の制約に対応したルールを必要最小限で定め、極力シンプルな流れや手続きを追求し、デザインすることで、高い効率性と柔軟性を確立した後方支援態勢を構築することができるのではないかと考えます。

このようなアプローチによって、在庫あるいは各種リードタイムの適正化といった直面する課題のいくつかは解決できるのではないのでしょうか。細かく見れば、様々な要因が複雑に絡み合い、簡単には解決できない課題もあるでしょうが、この一歩が理想的な後方支援態勢構築へのきっかけになればと考えます。

さて、次号以降においては、前述の理想的な後方支援態勢を支えることになるであろう、LCC (Life Cycle Cost) 管理やPBL (Performance Based Logistics) といった、個別の取組について、今後更に大きなメリットを得るために、どのように進めるべきか、弊社の考える望ましい取組の方向性等を紹介させていただきます。また、後方支援分野において、今後新たに議論すべき事項等が生じた場合には、それらの検討の方向性等についても述べていく予定です。

なお、本誌で紹介させていただく内容については、弊社の考えを述べるものであり、必ずしも課題等の解消をお約束するものではありません。とは言いつつも、防衛省・自衛隊における今後の取組にあたって、参考にさせていただければ幸いです。

【お知らせ】

弊社では、個人向けに、悩み事の解決、スキルやモチベーションの向上、新たなチャレンジの成功のためのメンタルコーチングを提供しております。また、組織向けとして、メンタルコーチングで使用する「認める」「質問する」等のコミュニケーション手法等を活用した人材育成の導入支援やコーチング研修の講師も行っております。興味のある方は、お気軽にお問合せください。

【発行者】

株式会社 アーパス 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-63-6
電話：080-6679-0594 E-mail：t.shimizu@apasnets.com